

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 103-8210
 住 所 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号
 花王株式会社
 氏 名 代表取締役 社長執行役員 澤田 道隆
 (代理人) 川崎工場 工場長 和田 康 印
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	花王株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	神奈川県川崎市川崎区浮島町1番2号		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	衣料用・台所用合成洗剤、住居用洗剤、柔軟仕上げ剤、シャンプー、リンス 及びボディーシャンプー等		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		24,752 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	地区サービスセンター 設備技術
		所在地	神奈川県川崎市川崎区浮島町1番2号
		電話番号	044-266-3231 (大代表)
		FAX番号	044-299-5517
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成 22年度 ~ 平成 24 年度 (報告年度 24年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	当社の環境への取組については、ホームページに公表しています。 Http://www.kao.com/jp/corp/eco/

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	52,078 49,384 t-CO ₂	49,340 46,657 t-CO ₂	49,398 47,346 t-CO ₂	46,816 44,590 t-CO ₂	48,730 46,180 t-CO ₂
削減率		5.3 5.5 %	5.1 4.1 %	10.1 9.7 %	6.4 6.5 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	生産重量		単位	t-CO ₂ /t	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	0.1201	0.1139	0.1160	0.1103	0.1165
削減率		5.2 %	3.4 %	8.2 %	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	当工場においては、衣料用洗剤の粉末洗剤より超濃縮液体洗剤（アタックNeo等）への生産移行によるエネルギー使用量の低下や廃液処理量の低減による処理燃料削減及び空気圧縮機の個別吐出圧制御より台数制御システム導入等により、排出量で5.3%及び原単位で5.2%と大幅に削減を図ることができた。
第2年度	3月発生 of 東日本大震災の影響を受け発令された電力使用制限の対応で、待機中のコージェネ設備を運転、買電電力を22%程抑制を行なった結果、昨年より燃料使用量が増加致しました。 その状況の中、当工場においては衣料用洗剤の粉末洗剤より超濃縮液体洗剤（アタックNeo等）への生産移行による燃料エネルギー使用量の低下や廃液処理量の濃淡分別による処理量減少に伴う処理燃料削減及び空気圧縮機の台数制御システムの本格稼働等による圧縮空気電力原単位改善等により、排出量で5.1%及び原単位で3.4%と削減を図ることができた。
第3年度	当工場においては、衣料用洗剤の粉末洗剤より超濃縮液体洗剤（アタックNeo等）への生産移行による燃料エネルギー使用量の低下や廃液焼却炉の集中運転や廃液処理量の濃淡分別による処理量減少に伴う処理燃料削減並びに圧縮空気の除湿装置の改善等により、排出量で10.1%及び原単位で8.2%と削減を図ることができた。 平成22年度に温室効果ガス排出量の削減のために計画致しました措置項目は、3年間の中で全て実施することが出来ました。また、濃縮液体衣料用洗剤への生産移行等により二酸化炭素排出量が当初目標の6%より10%程度と大幅に削減する事が出来ました。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

<p>○ CO₂削減に向け、さまざまな活動の展開</p> <p>「環境宣言」において、花王グループが2020年までにめざしているCO₂の削減量は、国内の消費者向け製品で2005年比マイナス35%（売上高原単位ベース）です。</p> <p>製品使用時の環境負荷低減や容器のコンパクト化・高効率ターボ冷凍機の導入及び都市ガスへの燃料転換などにより、2012年度は2005年度を基準として17%（売上高原単位）削減しています。</p> <p>2012年度は“製品がかかわるライフサイクル全体で考える花王のモノづくり”をテーマとして2012年12月東京ビックサイトで開催された環境展示会『エコプロダクツ2012』に出展しました。花王のブースには、約1万人のお客さまにご来場いただきました。花王の環境に対する考え方を紹介するとともに、代表的なエコ製品を通して日常的に無理なく続けていただくecoや容器包装での工夫など、花王の取り組みをご紹介しました。</p>
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、 第2号、 第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー使用量等の把握 ○燃料の燃焼の合理化 ○照明設備の運用管理 ○ヒートポンプの導入 ○コンプレッサーの運転管理
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー使用量等の把握 各部門の毎月のエネルギー使用量を把握・分析を行ない、原油換算量及びCO₂排出量毎の原単位をまとめ報告を定期的に行った。 ○ヒートポンプの導入 水冷式パッケージ型空調機7台をヒートポンプ式(空冷型)パッケージ型空調機へ取替えを行いエネルギー削減を行った。 尚、今年も継続し取替えを計画しています。 ○コンプレッサーの運転管理 コンプレッサーの個別吐出圧制御の運転を台数制御システムの導入による系統吐出圧の制御運転を行なうよう、運転管理強化を行った。
	第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー使用量等の把握 各部門の毎月のエネルギー使用量を把握・分析を行ない、原油換算量及びCO₂排出量毎の原単位をまとめ定期的に報告を行った。 ○燃料の燃焼の合理化 小型貫流ボイラーの機器更新に併せ、燃焼効率の向上した貫流ボイラーの導入を行なった。 ○ヒートポンプの導入 水冷式パッケージ型空調機をヒートポンプ式空調機へ取替えを行いエネルギー削減を行った。 ○コンプレッサーの運転管理 コンプレッサーの運転に台数制御システムを導入、その後の運転状況を確認し制御設定値の各調整を行ない、運転管理強化を行った。
	第3年度	<ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー使用量等の把握 各部門の毎月のエネルギー使用量を把握・分析を行ない、原油換算量及びCO₂排出量毎の原単位をまとめ報告を定期的に行った。 ○ヒートポンプの導入 水冷式パッケージ型空調機をヒートポンプ式空調機へ取替えを行いエネルギー削減を行った。 ○コンプレッサーの運転管理 台数制御システムを導入後の各設備の運転状況の見直しを行ない、除湿装置での圧縮空気のロス低減を行った。 <p>平成22年度に温室効果ガス排出量の削減のために計画致しました措置項目は、3年間の中で全て実施することが出来ました。</p>
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	な し
第1年度	な し
第2年度	な し
第3年度	な し

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○お客さまと“いっしょにe c o”を具体化した「アタックNeo」 ○「花王・みんなの森づくり活動」を展開 ○廃棄物の減量化・分別化の推進
第1年度	<p>○お客さまと“いっしょにe c o”を具体化した「アタックNeo」</p> <p>「お客さまと“いっしょにe c o”」を具体化した初めての製品が、衣料用超コンパクト液体洗剤「アタックNeo」です。環境配慮の視点における最大の特長は、「すすぎ1回で済むこと」。独自の技術が生んだ新洗浄成分アクアW（ダブル）ライザーは、高い洗浄力を発揮しながら、すすぎの際の泡切れがよく、洗浄成分が繊維に残りにくいため、通常2回のすすぎを1回にすることが可能になりました。大幅な節水と共に、洗たくにかかる電気の節約や時間の短縮も実現が可能となったエコ製品です。</p> <p>川崎工場に見学にいらした一般見学者にこのエコ製品についての説明を行っています。今年度は、6082名 205団体に洗濯等でラクに「エコ」がにできる製品として説明を行いました。引続き、2011年度も継続して行きます。</p> <p>○製品輸送での環境負荷低減の推進</p> <p>2010年度「エコ・シップマーク」受賞者に川崎工場「が選ばれ、国土交通省海事局長から表彰されました。受賞は、物流パートナーと共同し、九州地区への出荷に関し60%以上を海上輸送へモーダルシフトしたことが評価されたものです。</p> <p>○廃棄物の減量化・分別化の推進</p>
第2年度	<p>○お客さまと“いっしょにe c o”を具体化した「アタックNeo」</p> <p>「お客さまと“いっしょにe c o”」を具体化した初めての製品について、川崎工場に見学にいらした一般見学者に、昨年と同様に「アタックNeo」の環境を配慮したエコ製品（洗浄水の節約・洗たく時間の短縮による節電等）についての説明を行っています。今年度は、9439名 276団体に洗濯等でラクに「エコ」がにできる製品として説明を行いました。引続き、2013年度も継続して行きます。</p> <p>○廃棄物の減量化・分別化の推進</p>
第3年度	<p>○お客さまと“いっしょにe c o”を具体化した「アタックNeo」</p> <p>「お客さまと“いっしょにe c o”」を具体化した初めての製品について、川崎工場に見学にいらした一般見学者やサイエンスサマー見学者等に、昨年と同様に「アタックNeo」の環境を配慮したエコ製品（洗浄水の節約・洗たく時間の短縮による節電等）についての説明を行っています。今年度は、10,726名 323団体に洗濯等でラクに「エコ」がにできる製品として説明を行いました。引続き、2014年も継続して行きます。</p> <p>○廃棄物の減量化・分別化の推進</p>

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

48,007	t-CO ₂
47,981	

(2) 事業所等単位（第 1 号、第 2 号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k1 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
川 崎 工 場	川崎市川崎区浮島町 1 番 2 号	1642	石けん・合成洗剤製造業	48,007 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 以上 1,500k1 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500k1 未満	
300～400k1 未満	
200～300k1 未満	
100～200k1 未満	
100k1 未満	

(3) 事業所等単位（第 4 号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--